

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

札幌市立陵北中学校

1 本年度の重点目標

「自ら育つ力の育成」

2 本年度の経営方針

- ・人間尊重の教育
- ・学ぶ力の育成
- ・豊かな心の育成
- ・健やかな体の育成
- ・小中一貫した教育
- ・子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援・教育

3 自己評価結果

A：十分である B：概ね十分である C：不十分である D：改善を要する

領域	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	反省と改善の方向性	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校教育目標・教育課程	学校教育目標や基本方針及び取組などを保護者にわかりやすく伝えている。	A	学校公開日や学年・学級保護者集会などを実施することができた。学校HPの充実、保護者への情報提供等、ICT機器を活用した情報発信のあり方についてもさらに模索し、開かれた学校づくりを進めていく。	A	A
	教育目標や基本方針が教職員に理解され、教育活動の指標として活かされている。	A	生徒の実態や保護者の願い、校区の地域性を全職員で共有し、共通理解のもとに教育活動を進めていく。今後も全職員で学校経営方針を受け止め、各部・学年・教科などで効果的な教育活動を進めていく。	A	A
	諸会議、業務などが効率的に行われ、教職員が協力し、学校経営がなされている。	B	校務支援システムを活用し、諸会議や業務の効率化を図ることができた。諸会議においては、活発な議論が行われ、様々な取組に向けた方向性につなげることができた。次年度に向けて、会議・打ち合わせ内容の事前の伝達、事後の情報共有を迅速に行うと同時に、教師間の共通理解をさらに深め、充実した学校経営につなげていく。	A	A
	学習指導要領に基づき、教育課程の編成・実施は各領域の調和がとれている。	A	新学習指導要領による教育課程を、各校務分掌・学年・教科等と連携しながら編成を行っている。今後も主体的・対話的で深い学びにつなげていくために、継続して教育課程の編成に取り組んでいく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		生徒たちが心から「この学校で過ごせて幸せだった」と思えるような学校づくりをこれからも続けて欲しいと思います。生徒の実態や保護者の願いをアンケート等からとらえて、適切に教育課程が編成・実施されている。教員は多忙でメンタル疾患の者も出ていると聞いている。余裕をもって指導できるよう、様々な取組が必要だと考える。夜遅くまで働き続け大変だと思うが、そういう事を改善しなければ、教員になる若い人が増えないと思う。			
学習指導	授業時数は適切に確保されている。	A	教育課程全体の見直しをもち、可能な限りの授業時数を確保できた。次年度も授業時数の確保に努めつつ、学校生活に適度なゆとりをもたせていきたい。	A	A
	生徒が意欲的に参加できる授業が行われている。	A	生徒が意欲的に取り組む授業づくりを進めることができた。1人1台端末の活用場面を増やし、生徒が主体的に探究する学習活動を行うことができた。次年度も、授業を通して生徒が意欲的に学習できる取組を進めていきたい。	A	A
	生徒にとって分かりやすい授業が行われている。	B	「授業はよくわかる」と回答する生徒が8割を超えているのに対して、「授業は楽しい」と回答する生徒は8割に達していない状況が続いている。(前年度とほぼ同様)。わかる、できる、楽しい」授業づくりを目指し、教科における日常の実践交流など校内研修を充実させたい。	A	A
	総合的な学習の時間の内容は充実している。	A	各学年の旅行的行事や総合発表会において、ICTを活用した探究的な学習やプレゼンテーション能力の育成を進めることができた。また、総合発表会では、生徒の興味・関心に応じて多様な学習を行うことができた。次年度に向けて、より探究的な学習の推進のために、総合的な学習の時間の指導計画を充実化していく。	A	A
	評価基準や評価方法などは、適切である。	B	評価基準や評価方法は、各教科会を中心に毎年検証し、改善を図っている次年度に向けて、学習指導要領の評価観を全教員で共有するだけでなく、各種研修会等を通じて教科間での連携・交流を密にすると同時に、保護者集会や各授業において保護者・生徒への周知徹底を図っていきたい。	A	A
	家庭学習の習慣が身に付くよう指導している。	B	「普段から、計画を立てて学習している」と回答している生徒の割合が5割程度と、低い実態がある。次年度は、各教科において計画的な学習の組み立て方や授業の振り返りの方法など、生徒一人一人の特性に合わせた学習ができるよう、指導方法の工夫を行っていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		「授業は楽しい」と思える生徒の割合を少しずつでも高めるよう期待しています。総合的な学習で、お金の勉強をしてみたら良いと思う。学習についていけない子へも何らかの方法で対応してほしい。			

生徒指導	学校は、明るく落ち着いた雰囲気になっている。	A	普段から生徒が学校で意欲的に活動し、教師が生徒の活動を支えていることで互いの信頼関係が築かれ、落ち着いた雰囲気醸成できていると思われる。今後も生徒と教師、保護者の信頼関係を深め、生徒にとって安心できる学校づくりを進めていきたい。	A	A
	生徒は、きまりやマナーを守るなど基本的な生活習慣が身につけている。	A	多くの生徒がきまりやマナーを守って生活しており、事故報告も少ない。今後も折に触れて、安全・安心な学校生活の実現のために必要な指導を続けていきたい。	A	A
	生徒に、命の尊さを考え、思いやりの心を持つような指導がなされている。	A	道徳の授業を中心とし、教育活動全体を通して、命の尊さや思いやりの心を育てる指導を続けている。特に、「いじめ防止標語」の作成・掲示によって、いじめ防止に対する生徒の意識高揚につなげることができた。次年度に向けて、ICTの活用場面が増えたため、ネットモラル・マナー等の指導も一層充実させていきたい。	A	A
	不登校生徒など、支援が必要な生徒への対応が適切になされている。	A	各学年で不登校生徒に対する支援が急務となっている。校内学級の支援委員会を充実化させ、委員会開催を定期的に行い、情報交流と支援方策の検討を行った。また、希望者に対して、オンラインによる授業配信を実施している。	A	A
	生徒を理解しようと努め、個に応じた指導がなされている。	A	職員会議等では、特別な支援が必要な生徒について教職員内の共通理解を図り、その対応を確認した。生活調査や教育相談を通して、生徒の困り感の発見に努め、問題拡大の予防に努めた。今後も、保護者との連携を密にして、情報の共有と学校での指導を慎重に進めていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		今の青少年は、他国と比べて自己肯定感が低いと言われています。自分に自信がもてるような生徒がいっぱいの学校づくり・指導をお願いします。ネット上でのいじめは昔からあるが、非常に対応が難しいと思う。しかし、旭川でのいじめの様な事が起こらないよう指導していく事が大事。			
進路指導	資料や情報の提供が適切に行われ進路選択に活かされている。	A	生徒には学活で進路に関する情報を伝えるとともに、高校説明会への参加を促した。また、1、2、3年生保護者向けに進路説明会を行った。進路便りによる情報提供と進学の手続きに関する進路説明会を行った。次年度も効果的な進路指導を継続していきたい。	A	A
	3年間見通しを持った進路指導計画があり、主体的に進路を選択・決定できる能力や勤労観、職業観を身に付けるように指導がなされている。	B	職業体験などが難しい状況にある中、職業講話を行うことができた。今後も3年間の系統性を考慮した学習活動となるよう、進路指導主事を中心とした進路指導計画の見直しに取り組んでいきたい。また、令和7年度より職業体験実施を計画している。	A	A
学校関係者評価委員による意見		職場体験学習の実施は、ぜひ実現されるとよいと思います。世の中に、こんな仕事があるんだよと、あまり知られていない仕事を紹介して欲しい。子どもたちが将来の目標を早く決めると、それだけ勉強にも意欲が出ると思う。			
保護者や地域との連携	学校と家庭の情報共有が十分で、連携が図られている。	A	学校公開日や学年・学級保護者集会、三者懇談などを実施することができた。また、学校のICT環境の整備・運用に力を入れ、オンラインでの出欠連絡や授業配信など、家庭との情報共有、連携方法を模索した。次年度以降も、学校からの発信を充実させ、保護者アンケートに寄せられている声も検証し、十分に連携を図っていきたい。	A	A
	地域や関係機関との連携を図りながら教育活動が行われている。	A	HPでの発信や保護者向けに学校公開などを行うことができた。また、町内の夏祭りなど、町内会の協力を得ながら、地域行事に参加させていただくことができた。今後も地域との連携やつながりを大切にしていこうと努めていく。	A	A
	地域や保護者の声に素早く誠実に対応している。	B	学校公開日や学年保護者集会を実施し、保護者が学校に足を運ぶことができる機会を設けることができた。また、学校評価アンケート等を通していただいた地域や保護者の意見を共有し、可能な限り改善に繋げ、信頼される学校づくりを進めていきたい。	A	A
	近隣小学校や中学校、高等学校との連携が図られている。	A	今年度は教員の交流(中学校教員が小学校授業見学や中学校の研修会に小学校教員が参加)に加えて、生徒児童の交流(小学校児童が中学校の授業を見学)を実施した。札幌市が目指す小中一貫した教育を更に進め、義務教育9年間を見通した教育活動の展開につなげていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		学校だよりや、生徒たちの様子など、ときどきHPで見させていただいています。学校に足を運び、交流することがみつきり減ってきたのでちょっと寂しい思いです。ぜひ2025年度は対面で評価委員会を開催したいです。小中一貫した教育について協働して推進していきたいと思ます。共働が増え、なかなか学校へ行けない人も多く、夜、電話する事も出来ない保護者の声はどう届けたいでしょうか。			